

丹波篠山市立篠山東中学校『学習・生活に関する学力向上プラン』

本校では、毎年、中学1、2年生を対象に実施される丹波篠山市学力・生活習慣状況調査の結果をもとに、『学習・生活に関する学力向上プラン』を作成しています。

以下に、今回の調査結果を分析しまとめましたので報告します。本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であることや、学校における教育活動の一側面であることを踏まえつつ、保護者・地域の皆様のご理解とご協力のもと、適切に連携を図りながら、一層の指導上の工夫改善に努めてまいります。今後も引き続き、本校の教育活動に対してご支援いただければ幸いです。

丹波篠山市学力・生活習慣状況調査結果の概要**○国語科では、**

「基礎力」「活用力」を合わせた全体の平均正答率は、全国値と同程度でした。領域別では、「情報の扱いに関する事項」「我が国の言語文化に関する事項」の2領域が全国値よりも高く、「言語の特徴や使い方に関する事項」「書くこと」の2領域は全国値と同程度ではあるものの、平均値を1～3ポイント下回り、課題がみられました。

○数学科では、

全体の平均正答率は全国値と同程度でした。領域別では、「図形」の領域で全国値よりも高く、問題別では、特に「面積と体積」の問題で全国値よりも高い状況でした。ただし、関数の領域にはやや課題がみられました。

○学習習慣・生活習慣等についての意識調査からは、

全項目において、全国値と同程度の結果でした。「いじめのサイン」「学習習慣」「学級の規範意識」等は全国値よりも高く、また「クラスの絆」に関する質問項目では、約6割の生徒が全国値よりも高く、クラスを肯定的に捉えていることがうかがえました。反面、「成功体験と自信」「他者からの評価」においては全国値と同程度ではあるものの、平均値を3～4ポイント下回っていました。

現在の課題および今後の学力向上方策**○国語科**

課題の見られた「言語の特徴や使い方」「書く力」の向上を意識した取組を進めます。授業においては、1～2週間に1回ずつ200～400字程度の条件作文を書く時間を設定・継続しており、今後も自ら考え書くことに慣れ親しむ時間を確保していきます。「言語の特徴や使い方」については、国語の授業の教材だけでなく、学校生活の中で敬語や言葉遣いを意識させる等、様々な場面において課題の克服を目指していきます。

○数学科

関数の領域については、2学期に学習する「比例・反比例」や、3学期の「データの活用」の内容が大きく関連する単元となります。「式」と「表」と「グラフ」を相互に関連させて思考することを重点に、ICTを活用して視覚的に捉える場面や、日常の事象と関連した題材を取り入れる場面、理由や根拠を明確にして数学的に説明する場面等を取り入れることを進めていきます。

○『学習習慣・生活習慣等についての意識調査』

全項目において、全国値と同程度の結果でしたが、上述の通り「成功体験と自信」「他者からの評価」を今後の課題として改善に取り組めます。体育祭や文化祭、スキー学校等の行事を通して「お互いのよさを認め合う」「人前に立ち発言する」「自分自身を見つめなおす」等の機会や場면을数多く設定するとともに、それらの取組の土壌となる、より安全・安心な学級（学年）づくりにも取り組みます。

【保護者へのお知らせとお願い】

本校では、今回の調査結果を踏まえ、お子様一人ひとりの学習のあり方や生活習慣についての指導方法を検証し、授業改善に取り組んでまいります。各ご家庭におかれましても、お子様の家庭学習のあり方や生活習慣について今一度ご確認いただき、ご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

また、子どもたちの持てる力をさらに伸ばしていくためには、何より周りの支えが必要です。個々の成長、そして個を育むより良い集団をつくるためにも、学校と家庭・地域とが連携協力し、子どもたちを支えていけますよう、ご協力をよろしくお願いいたします。

【比較について】

- | | |
|-------------------------------|----------|
| ・本校の正答率が全国値に対して+5ポイント以上 | 【高い】と表現 |
| ・本校の正答率が全国値に対して差がない（±5ポイント以内） | 【同程度】と表現 |
| ・本校の正答率が全国値に対して-5ポイント未満 | 【低い】と表現 |